

請 願 文 書 表	
番号 6-4	受付 令和6年11月18日
件名 フリースクールの利用料に対する助成を求める請願書	
紹介議員 吉田 奈々 堀口 香奈 高久 良美 布瀬 恵	

請願趣旨

文部科学省によると、2023年度、不登校とされる小中学生の人数は34万6千人余りで、11年連続で過去最多を更新しています。

大和市では、2023年度に614名の児童や生徒が不登校状態であり、増加の一途をたっています。

一方、子どもたちの学校以外の居場所として全国的にニーズが高まっているのがフリースクールです。

私の息子（小学1年生から不登校で現在小学4年生）のケースでは、これまで学校以外の活動場所として、市内の施設（はぐくみや放課後デイ等）の利用を検討しましたが、いずれもマッチせず、昨年から本人の意向で週1回市外のフリースクールに通っています。その結果、同じ趣味の友達ができ1人で外出できるようになっただけでなく、学校にも通う意欲が出るなど、大きな変化がありました。

しかし、フリースクールに通うための経済的負担は大きく、文部科学省の調査によると、フリースクール利用料（月額授業料）の平均は約33,000円で、入学金がかかることも多い現状があります。実際に、息子の通うフリースクールは、週1回（午後3時間のみ）で月額36,300円（交通費別途）の利用料がかかっています。

フリースクール利用料の助成があれば、不登校の子どもが平等に教育を受け、未来への希望を持って成長することができます。

以上のことから、次の要請をいたします。

請願事項

フリースクールの利用料に対する助成を求めます。

陳 情 文 書 表	
番号 6-22	受付 令和6年10月30日
件名 総合型地域スポーツクラブ団体に補助金交付についての陳情書	

総合型地域スポーツクラブ団体に対する補助金交付のお願い

拝啓

平成27年度に、大和市からの総合型地域スポーツクラブ設立案内を受け、当クラブは応募と面接を経て正式に認定されました。初年度には、準備金として50万円を交付していただき、その後も2年間にわたり持続給付金50万円を受け、会員募集や活動は順調に進行いたしました。平成28年にはNPO法人化を果たし、組織基盤も強化されました。

しかしながら、令和5年2月、副理事長が市長選に立候補することになり、NPO法人としての支援活動が特定非営利活動促進法第2条2項に抵触することが判明し、結果としてNPO法人は解散せざるを得ませんでした。

その後、大和市スポーツ課及びよか・みどり・スポーツ財団に相談し、総合型地域スポーツクラブとしての運営には問題がないことを確認しております。しかし、設立後の補助金は2年で打ち切れ、コロナ対策支援金で何とか乗り切ってきたものの、現在は資金難に直面し、運営に大きな支障を来しております。

クラブの活動実績

当クラブには、元教員、国体出場者、スポーツ少年団の公認指導者、野球指導者資格者、アメリカンフットボールやバスケットボール経験者、弓道講師資格者など、多様なスポーツ指導者が所属しております。これまで地域の子どもたちや市民を対象に、広報誌の発行、野球教室の企画、「空エコ教室」や「終活を考えよう」などの地域講座、災害や食育に関する活動など、幅広い事業を展開してまいりました。また、大和市主催の駅伝大会への協力や、オリンピック種目体験イベントも実施しております。

地域と学校の連携に関して

近隣の相模原市や綾瀬市では、学校と地域が連携し、放課後のクラブ活動を地域移行する取組が進んでいます。当クラブも大和中学校に外部指導員として協力を申し出ましたが、現時点では地

域クラブとの連携は進んでおらず、校長や野球部顧問から「依頼の必要はない」との返答を受けました。

補助金交付のお願い

大和市においても、今後は地域移行が重要となると確信しています。引き続き地域の子どもたちや市民に貢献し、持続可能なクラブ運営を続けていくために、持続給付金の交付を何とぞお願い申し上げます。当クラブの継続と発展のため、御支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

敬具

陳 情 文 書 表	
番号 6－25	受付 令和6年11月13日
件名 大和市北部における病児保育施設の新設に関する陳情書	

陳情の趣旨

1. 大和市北部における病児保育の不便さと新設

大和市北部においては、現在病児保育施設が閉鎖されたため、利用できる施設がなくなり、地域住民は大きな不便を感じております。特に車を所有していない家庭では、大和市中部にある病児保育施設まで移動することが困難であり、子供が病気になった際に安心して保育をお願いできる環境が失われております。この状況を解消するため、大和市北部に新たな病児保育施設の新設を強くお願い申し上げます。

2. 「子育て王国大和市」としての取組

「子育て王国大和市」を掲げる市であるにもかかわらず、病児保育施設の閉鎖という状況は、このスローガンと矛盾するものではないでしょうか。市として、子供を持つ家庭が安心して生活できる環境を整えるためには、病児保育も重要な要素です。今後、子育て支援の一環として、病児保育にもさらに力を入れていただくことを強く望みます。

以上の点を路まえ、大和市の子育て世帯が安心して生活できるよう、早急な対応をお願い申し上げます。